

では一、三%（松戸市は約〇、七%）をかけており、さらに図書費のみでも年間一億円（松戸市は七千万円弱）、蔵書が増えたからといって予算が削られるということもないとのこと。また、常に新しい情報を求める市民のニーズに対応できるよう、通常は司書率五〇%のところを四五名中四三名の専門職が配置されているとのことと、浦安の図書館の現状は羨ましく限りませんでした。

松戸市の現図書館が手狭であることは誰もが感じているところでありながら、新たな図書館の建設に向けての積極性はそれほど感じられません。財政が厳しいという現状はあるにしても、人材の育成や予算の配分等、市長の姿勢次第で変わるものと思えます。

## 岡田 脩 さん

浦安図書館・以前より立派なものだと思っていたが、この度の見学と、さすが成程と納得。いろいろとあちこち見て歩いたが、これほど自信に満ち、誇りを持った熱っぽい語り口で説明できる担当者少ない。

何事とあれ、施設が、設備が、運営がと言ってみても、日々事に当たる人こそ全てであろう。振り返り我が方のミスキャストが、熱意持たない体制が情けない。

家が建ち人の住み着く所。あわて学校を、道路を、公園を、下水をと。ひずみの是正と称し、事至るの感覚。始めからどこかずれている。人々の街への意識の高まり、人心融和の緊密さ

こそ、街としての品格はあるものだ。

高齢化の速さ、手に負えず。財政逼迫とて金に困り、今さら市民、行政共働社会とは。勝手なこと言うな。と市民は思うだろう。皆さんお住まいの街だからと言われても、何に愛着を、何に誇りを、どうやって市民意識を高めるといふのか。

年月かけるのは、樹々の育ちと人のつながり。街づくりの始まりに、定住化への配慮を。住む人々の社会意識の涵養に。図書館文化を核とした、浦安のアイデンティティーに敬意、敬服。



# 二階堂剛さん

浦安市の図書館については、過去に新聞などで広々とした空間をもった図書館であると思っ  
ていました。

訪れてみると、噂どりの広  
大としてゆったりとした明るい  
図書館でしたし、書棚も木製に  
なっていて気持ちやすらぎます。  
浦安市は、年間図書購入費が  
一億円から一億四千万円ほどで、  
年間に約七万冊購入したときも  
有ったそうです。現在は、一週  
間に千冊の本の購入が必要との  
こととす。それは、現在の図書  
館の特徴としては、市民が日常  
生活、仕事などが必要な情報を  
常に完備していなければ市民の  
図書館利用が減ってしまうから

だそうです。

図書館を運営していくために  
理想としては、図書費が一般会  
計の1%にあたる金額で、年間  
に20%の本が入れ替わることだ  
そうです。

また、浦安市の図書館職員は、  
四五名中四五名が司書の資格を  
もっていて、この図書館で五年  
から十年間働いているようです。  
図書館職員が、五年から十年の  
経験を有していないと市民のニ  
ーズ、100の本にどんな情報か  
あるかを答えることができない。  
という考えに浦安市の図書館う  
くりが表れているように思いま  
す。

そのことは、浦安市の人口が  
十二万人であるのに対して年間  
の貸出し冊数が一三三万冊と高  
い結果になっています。

また、障害者宅への宅配サー  
ビス、子供に対するサービスを  
どうするのかなどに取り組んで  
いることも印象的でしたし、松  
戸市の図書館を考えていくのに  
大変参考になりました。



おい、図書館

五回目の訪問記

今回の浦安市立中央図書館の  
見学は、私には三回目になりま  
す。然し今回感激し、清々し  
い気持ちになった事はないです。  
まず暑い最中に議員の方々と  
御一諸に参加出来た事です。議  
員と市民が問題意識を共有でき

るチャンスを得たこととす。次に館長さんの説明を聞き、この図書館がいかに素晴らしいか再確認できたからです。設立には図書館に理想を持ち、実力のある人の関与と出来上った様ですが、私が感激したのはその後の運営です。

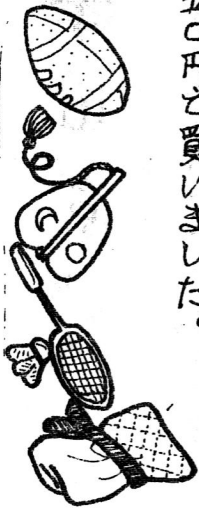
社会は常に変化し、要求も多様化していきます。又、毎日の仕事の中でマンネリ化します。立派な図書館は、図書館の役割・位置づけが明確にされています。浦安とは四五名の職員のうち、四三名が専門職との事ですが、これらの人達が、更に研修を重ね、能力が開發され本場の専門職として業務にあたっています。特にレズレニス室の情報収集活動の日々、その充実振りは圧巻です。これらの姿勢は、行政全般

に通じる事と、能力を發揮させ、人を育てる事が大切だと思えます。

図書館費が市の財政の中で1%を計上できれば合格との事です。浦安市は二三%です。

本代は年間一億円があげられ、市民一人あたり千円とか。良い図書館には財政的裏付けは不可欠です。現在財政の逼迫はどこも常識です。しかし、財政的にも家計とも、どこにポイントを置き、無駄を省くかです。財政の質・方向の問題とす。

この図書館見学後、関西旅行のため松戸図書館へ行きました。ところが一冊も本が無く、結局三三〇円と買いました。



例年三冊ぐらい借りていたのに、趣味の種物の本は昔から古い本ばかり、今回は本がほとんど無かったとす。松戸市の本代は年間いくらなのか、選書はどうなっているのか素朴な疑問が出ます。浦安の種類が多く充実した本棚を思い出しました。私は昔から松戸図書館と通う事が多かったが今は増々倉庫の様な図書館になっています。休日、浦安図書館のような所とゆったりと通うしてみたいとの願望があります。最後の方と、浦安の館長さんの言われた千葉県は図書館県としての方向性があるとの言葉が印象的でした。

(西山怜子)

発行 おい図書館

連絡先 青木和子

松戸市総合ハ三〇一六〇

# おい書館

No. 41

## 浦安図書館を

訪ねて

四名の議員と共に

七月二十九日に浦安図書館見学に行ってきました。会が始まってから五回目の訪問になります。今回は市議会議員の方々をお誘いしたところ、六名の方が参加を希望されました。二名の方が前日より急用が過ぎ、四名の方が同行して下さいました。浦安図書館の感想を書いていたいただきましたので、原稿を受けとりました順に掲載しました。



## 中田京子

まちづくりのコンセプトとして、図書館を用いたのが浦安市ですが千葉県の中でも財政状況の良いこと知られる町だなあ、そんな印象を受けました。説明してくださいました図書館職員の方への質疑をうかがっていますと、おい図書館の方たちは図書館についてはよく存じてすので、これからは地方財政についてもお知っていただきたいと思われました。国からの図書館への補助金の制度もなくなったようですし（九七年一月 自治省財政課長内かんより）、地方分権の議論はしても税源委譲は無いことがはっきりしました（地方分権推進委第二次勧告）。松戸の「中央図書館」はどのう

うコンセプトであるべきか、どんな目的のもとでの手段としてあるのか、「中央図書館」の政策としての優先性は何か、私にははっきりと見えません。いっしょにいそんな角度から解き明かしていきたいものです。今回はお誘いくださり、ありがとうございました。おもしろかったです。

## 工藤鈴子



浦安の図書館の訪問は二回目でしたが、今回は施設の詳細な説明をお聞きすることができ理解を深めることができました。一般には総予算の1%を図書館費とすると施設が充実するといわれているところを、浦安市